健康な教会の８つ目の印(マーク)：祈り 使徒の働き 4:23-31
今朝は、これまで学んできた「健全な教会の９つのしるし」のシリーズに戻ります。今日は８つ目のしるしである「祈りについての聖書的な理解と実践」について学びます。まず、使徒の働き４章 23〜31 節を開いてください。この箇所には、キリストのからだである教会がともに集まり、礼拝の中で心を一つにして祈る姿が記されています。今日は特に、教会がともに集まるとき、どのように祈り、礼拝し、教会の歩みの中で祈りを大切にしていくべきなのかを考えたいと思います。使徒の働き４章には、初代教会のクリスチャンたちが、ともに礼拝するときにどのように祈っていたのか、その一つの例が示されています。この祈りの前には、教会の最初の長老の二人である使徒ペテロと使徒ヨハネに関わる出来事がありました。ユダヤ人の指導者たちは、教会が大きく成長し、キリストに従う人々が次々と増えていくのを目の当たりにしていました。使徒の働き４章４節には、信じた人の数が男性だけで約 5,000 人になったと記されています。この 5000 人の中には女性は含まれていません。つまり、この時点ですでに教会は、今日のメガチャーチと呼べるほどの規模になっていたのです。このことに危機感を抱いたユダヤ人の指導者たちは、ペテロとヨハネを逮捕させました。

神に仕えるこの勇敢な二人は、イスラエルの宗教指導者である大祭司や最高法院の議員たちの前に連れ出されました。そして、使徒の働き４章７節にあるように、彼らは「何の権威によって、また、だれの名によって、このようなことをしたのか」と問いただされました。これは、ペテロとヨハネが語っていた教えだけでなく、彼らが一人の男性を癒やしたことをも非難するものでした。それに対して、ペテロとヨハネは 11〜12 節で、命を失うことさえ覚悟しなければならないような、大胆な言葉を用いて答えました。11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石、それが要の石となった』というのは、この方のことです。 12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」当然ながら、このような答えを聞いて、宗教指導者たちは喜ぶどころか、憤りを覚えました。実際、18 節では、宗教指導者たちが、ヨハネとペテロに、イエスの名によって語ることも教えることも、いっさいしてはならないと命じています。しかし、ペテロとヨハネはその命令に従うことを拒み、20 節でこう答えました。「私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」それでも、ユダヤ人の指導者たちは二人を罰することができませんでした。21 節にはこうあります。「そこで彼らは、二人をさらに脅したうえで釈放した。それは、皆の者がこの出来事のゆえに神をあがめていたので、人々の手前、二人を罰する術がなかったからである。」こうして、指導者たちは二人を釈放せざるを得ませんでした。この出来事を受けて、教会の人々はともに集まり、祈りました。その祈りが 23 節から記されています。それでは、23〜31 節を読んで、この箇所を詳しく見ていきましょう。23 さて、釈放された二人は仲間のところに行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。 24 これを聞いた人々は心を一つにして、神に向かって声をあげた。「主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方です。 25 あなたは聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。 『なぜ、異邦人たちは騒ぎ立ち、 もろもろの国民はむなしいことを企むのか。 26 地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、 主と、主に油注がれた者に対して。』 27 事実、ヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人たちやイスラエルの民とともに、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもべイエスに逆らってこの都に集まり、 28 あなたの御手とご計画によって、起こるように前もって定められていたことすべてを行いました。 29 主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。 30 また、御手を伸ばし、あなたの聖なるしもべイエスの名によって、癒やしとしるしと不思議を行わせてください。」 31 彼らが祈り終えると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。
この祈りには、今日、私たちが教会の礼拝でともに祈るときにも大切な、五つの要素が含まれています。この祈りを通して、「祈りについての聖書的な理解と実践」とは何を意味するのかを学ぶことができます。まず一つ目は、教会がともに集まって祈るとき、その祈りは、キリストのからだである教会全体を代表して、神にささげられるものであるということです。以前にも、祈りの

基本的な形として、ACTS というモデルについてお話ししました。ACTS とは、Adoration（賛美）、Confession（罪の告白）、Thanksgiving（感謝）、Supplication（願い求めること）の四つを表しています。この ACTS のモデルは、神を賛美することから始まります。そして、それはまさに、この箇所の祈りにも見られることです。この祈りは、自分たちの願いを述べることからではなく、神がどのようなお方であるかをたたえることから始まっています。まず、神が主権者であることを認め、さらに、なぜ神が主権者なのかを語っています。それは、神が天と地と海、そしてその中にあるすべてのものを造られたお方だからです。そして続いて、旧約聖書のことばを引用し、この地上で人々が企てる悪さえも、神の支配の外にはないことを示しています。人々はむなしいことを企み、地上の王たちは主に逆らって立ち上がります。しかし、ここで引用されている二つの節に続く、詩篇 2 篇 4 節にも注目したいと思います。なぜなら、この祈りをささげた人々の多くは、敬虔なユダヤ人として育っており、詩篇 2 篇の次の節に何が書かれているかをよく知っていたはずだからです。なぜ、異邦人たちは騒ぎ立ち、 もろもろの国民はむなしいことを企むのか。 26 地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、 主と、主に油注がれた者に対して。詩篇 2 篇 4 節には、こうあります。「天の御座に着いておられる方は笑い 主はその者どもを嘲られる。」この祈りを聞いていた人々も、この 4 節のことばを思い起こしたことでしょう。つまり、神はすべてを治める主権者であるだけでなく、悪を企む人々もまた、神の支配の外にいるわけではないのです。この神の主権については、後ほどもう一度触れたいと思います。しかし、ここでもう一つ注目していただきたいことがあります。それは、この祈りには「私」という言葉が出てこない点です。この祈りでは、神に向けた「あなた（you）」という表現がたくさん出てきます。また、祈っている人々について語るときも、「私たち（we）」という表現が使われ、「私（I）」という表現はありません。29 節を見てください。「主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。」この祈りは、全員が同時に声を出して祈ったり、同じ祈りの言葉を一緒に唱えたりしたものではなく、おそらく長老の一人が教会全体を代表して祈ったものでしょう。そして、ほかの人々は、その祈りに心を合わせ、自分たちの祈りとして受け止めていたのでしょう。彼らが願っていたのは、イエスに敵対する人々を前にしても、ペテロとヨハネが示したような大胆さを、教会全体が持つことでした。それは、かつてヘロデやポンティオ・ピラトがイエスに敵対し、イエスを死に至らせたときと同じような状況でした。この祈りの中には「アーメン」という言葉は出てきませんが、私たちが教会でともに祈るときに「アーメン」と応えるのは、「そのとおりになりますように」という意味があるからです。つまり、「アーメン」と言うことで、「今ささげられた祈りは、私自身の祈りでもあります」と表しているのです。このように、29 節の祈りも、教会にいる神のしもべたち全員が、大胆にみことばを語ることができるよう願う祈りだったのです。

ですから、教会がともに集まって祈るとき、その祈りは神に向けられたものであると同時に、教会全体を代表してささげられるものでなければなりません。**二つ目に注目したいのは、この祈りの中で、聖書のみことばが多く用いられていることです。**ここで、25〜26 節に引用されている詩篇 2 篇のことばをもう一度見てみましょう。25　あなたは聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。 『なぜ、異邦人たちは騒ぎ立ち、もろもろの国民はむなしいことを企むのか。 26 地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、 主と、主に油注がれた者に対して。』ここでは、聖書のみことばが祈りの中に取り入れられていることがはっきりと分かります。しかし、これは単に聖書のことばを引用しているだけではありません。私自身、聖書のことばを用いて祈るとき、神の愛や私たちの罪深さについて語っている、よく知られた箇所ばかりを引用してしまうことが多いと認めざるを得ません。個人的に祈るときにも、私はよく聖書のみことばを用います。しかし、この祈りでは、詩篇の中でもあまり知られていない箇所を引用し、旧約聖書の時代に神がご自分の民のためになさったことが、新約聖書の時代にも同じようになされていることを示しています。これは、聖書のみことばを深く理解し、今の状況に当てはめた祈りです。ここで注目したいのは、旧約聖書のみことばを通して、今、教会の中で神がどのように働いておられるのかを理解し、それを祈りの中で言い表していることです。ここで引用されている詩篇は、その作者であるダビデ王が敵対する人々に立

ち向かわれたとき、神がダビデのために働かれたことを示しています。そして、旧約聖書に描かれている、ご自分の民のために力をもって働かれる神の姿が、27〜29 節では、当時の教会が直面していた状況に当てはめられているのです。27　事実、ヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人たちやイスラエルの民とともに、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもべイエスに逆らってこの都に集まり、 28　あなたの御手とご計画によって、起こるように前もって定められていたことすべてを行いました。 29　主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。

このように、聖書のみことばを祈りに取り入れていることは、教会全体でささげる祈りに必要な三つ目の要素を示しています。それは、**神の主権に対する揺るぎない信頼です**。これはとても大切なことです。この祈りの中で、神の主権がどのように語られているかを見てみましょう。24 節では、「主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方です」と祈っています。そして 28 節では、「あなたの御手とご計画によって、起こるように前もって定められていたことすべてを行いました」と語り、すべての出来事が神の御手とご計画のもとにあることを認めています。教会全体でささげる祈りも、私たち一人ひとりの祈りも、神の主権に対する深い信頼に根ざしたものでなければなりません。神の主権とは、神がこの宇宙のすべてを、そして私たちの人生のすべてを完全に治めておられるということです。では、なぜ私たちの祈りには、この真理が反映されるべきなのでしょうか。それは、私たちが祈るとき、神がこれまでになさったことを賛美し、また、私たちのために働いてくださるよう願い求めるからです。もちろん、祈りはそれだけではありません。もちろん、祈りには、神がどのようなお方であるかを覚え、そのすばらしさをたたえることも含まれます。しかし、ここで特に考えたいのは、神がなさったことへの感謝と、神に願い求めることです。この二つは、どちらも神の主権に対する深く揺るぎない信頼に基づいていなければなりません。それはどういうことでしょうか。テサロニケ人への手紙第一 5 章 18 節には、こうあります。「すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」私たちが人生で経験するすべてのことについて、心から神に感謝するためには、どのような出来事も神のご計画と支配のもとにあると信じることが必要です。神が主権者であるということは、私たちが悪いこと、つらいこと、望ましくないことだと感じるような出来事も、神の支配のもとにあるということです。神は、私たちがそのような出来事を経験することを許されたか、あるいはご自身のご計画の中で必要だと定められたのです。そして、神はご自身の永遠のご計画に従って、すべてのことを、ご自身の栄光と私たちの最善のために働かせてくださるのです。

私たちの救いそのものも、第一には神が私たちを愛しておられるからくださるのではありません。まして、私たちが救われていない人々よりも特別であったり、重要な存在であったりするからでは決してありません。神が私たちを救ってくださるのは、ご自身の栄光を現すためなのです。エペソ人への手紙 1 章 11〜12 節には、こうあります。またキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。 12　それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです。神は、私たち一人ひとりを罪の束縛から解放し、救いたいと願っておられます。それは、神の似姿として造られた私たちが、神の栄光を現すという本来の目的を取り戻すためです。そして、神の栄光を現すことの中にこそ、私たちは、どのような状況にあっても、この人生で得られる最も大きな喜びと幸いを見いだすのです。そして神は、私たちの罪の罰を身代わりに負って十字架で死なれたイエス・キリストを通して、この目的を成し遂げられました。なぜそれが可能だったのでしょうか。その答えは、この祈りの四つ目の要素にも示されています。**それは、この祈りが福音に根ざしているということです**。福音とは、神がご自身の主権的なご計画の中で、私たちの身代わりとなって罪の罰を受ける、完全に聖なる、罪のないいけにえを備えてくださったということです。そのいけにえこそ、イエス・キリストご自身でした。この福音の真理は、私たちの祈りの中にも常に表れていなければなりません。ここでも、イエスが神によって任命され、油を注がれ、選ばれた聖なる救い主として語られてい

ることが、福音を指し示しています。ですから、イエス・キリストを自分の主、救い主として信じるなら、罪が赦され、神の栄光を現すことができるのです。今日、この説教を聞いている方の中には、私たちの礼拝や祈りをすばらしいと感じていても、実際にはその祈りに加わることができず、心を合わせて「アーメン」と言うことができない方がいるかもしれません。それは、まだキリストのからだの一部となっていないからです。ここで私が言っているのは、教会員であるかどうかではありません。キリストのからだの一部であるか、つまり、イエス・キリストに従い、イエスを信じる者であるかということです。今日、あなたもイエス・キリストを信じることによって罪を赦され、キリストのからだである教会の一員となることができます。そして、礼拝で私たちがささげる祈りに、あなたも心を合わせて加わることができるのです。

そして、教会全体でささげる祈りの五つ目、**最後の要素は、教会全体のために願い求めることです**。ここでは、教会に集う人々のために、また教会を通して神が働いてくださるように祈っています。ただし、この祈りの中で神に願い求めていることについて、二つの点に注目したいと思います。一つ目は、祈り全体の中で、願い求めることに費やされている部分が非常に少ないということです。二つ目は、その願いの多くが、神が自分たちを通して働かれ、ご自身の栄光を広めてくださることに向けられているということです。もちろん、これは病気の癒やしや経済的な必要など、生活上の具体的な必要のために祈ってはいけないという意味ではありません。実際、30 節にも癒やしを求める祈りが出てきます。しかし、この祈り全体を通して中心となっているのは、神の主権を認め、神が自分たちのためになさったことを賛美し、感謝することです。そして、その神の主権に信頼しながら、29〜30 節では、教会のために神が働いてくださるよう願い求めているのです。29　主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみことばを大胆に語らせてください。 30　また、御手を伸ばし、あなたの聖なるしもべイエスの名によって、癒やしとしるしと不思議を行わせてください。」ここには癒やしを求める祈りもありますが、それ以上に重視されているのは、脅しを受けても大胆にキリストを宣べ伝えることができるようにという願いです。この祈りには、神が教会の中で癒やしを行い、しるしと不思議なわざを現してくださるという信頼が見られます。しるしと不思議なわざについて詳しくお話しする時間はありませんが、新約聖書全体を通して、癒やしのための祈りがささげられる一方で、常にキリストを宣べ伝えることが重視されています。私たちの祈りでも、キリストを伝え、神の栄光を現すことを第一に願い求めるべきです。もちろん、一人ひとりの癒やしも、神がその目的を成し遂げるためのご計画の一部である場合があります。この祈りも、そのような理解に基づいているように思われます。ですから、霊的な必要とともに、病気の癒やしを祈り求めることも、正しく、大切なことなのです。

この箇所の最後に、彼らの祈りに対して何が起こったのかに注目してください。31 節には、こうあります。「彼らが祈り終えると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。」神は彼らの祈りに応えてくださいました。彼らは神の力が現れるのを目の当たりにし、イエス・キリストの福音を大胆に宣べ伝える力を与えられたのです。これこそ、私たち YIBC でも起こってほしいことです。このような力は、教会が心を一つにして祈ることを通して与えられます。それは、神を中心とし、神の主権に信頼し、福音に根ざし、聖書のみことばに満たされた祈りです。そして、神が私たちの願いに力をもって応えてくださると信じて祈ることです。ですから、毎週の礼拝で祈りを聞くとき、水曜日の夜の祈祷会や毎月第一日曜日にこの礼拝堂でともに祈るときには、今日学んだ教会全体でささげる祈りについての理解を、何をどのように祈るかの指針としていただきたいと思います。神が私たちの祈りを聞き、力をもって応えてくださいますように。そして、イエス・キリストを切実に必要としているこの世界に向かって、私たちが福音の真理をさらに大胆に宣べ伝え、教会としてその真理を日々の生活の中で実践していくことができますように。それでは、祈りましょう。

8th Mark of a Healthy Church – Biblical prayer Acts 4:23-31

This morning, we return to our series on the 9 Marks of a Healthy Church. Today we are looking at the 8th mark, which is a Biblical understanding and practice of prayer. I want us to turn in our Bibles today to Acts 4:23-31 where we see a prayer offered corporately as the gathered Body of Christ in worship. That is our focus today. We want to strictly focus on how we pray and worship and incorporate prayer in and through the life of the church when we gather together. What we see in Acts 4 is a sample of how the earliest Christians prayed together when they worshipped. This prayer followed an incident involving two of the church's first Elders, the Apostle Peter and the Apostle John. The Jewish leaders saw how big the church was becoming, and how many people were becoming followers of Christ. Verse 4 of Acts 4 says that the number of believers had increased to about 5000 men, and that number was specific in that it did not include women. So, the church was already a megachurch, alarming the Jewish leaders who had Peter and John arrested.

These two bold men of God were hauled in front of the high priest and the Sanhedrin, the religious leaders of Israel and questioned them about whose name they were doing this in verse 7 of Acts 4. Partially, they were questioning their preaching, but also how they had healed a man as well. Peter and John responded in verses 11-12 with the courageous words that could spell their death. ...Jesus is the stone that was rejected by you, the builders, which has become the cornerstone. 12 And there is salvation in no one else, for there is no other name under heaven given among men by which we must be saved." Of course this kind of response did not make the religious leaders happy. In fact in verse 18 we are told that... "they called them and charged them not to speak or teach at all in the name of Jesus." Peter and John did not agree to that but instead in verse 20 responded that they must... speak of what we have seen and heard. In spite of their refusal to comply, the Jewish leaders could not ...punish them, because of the people, for all were praising God for what had happened...(Verse 21)...so, they had to let them go. It was in response to this event that the church gathered and we begin reading about their prayer starting in verse 23. Let's read verses 23-31 as we get into this passage. 23 When they were released, they went to their friends and reported what the chief priests and the elders had said to them. 24 And when they heard it, they lifted their voices together to God and said, "Sovereign Lord, who made the heaven and the earth and the sea and everything in them, 25 who through the mouth of our father David, your servant,[d] said by the Holy Spirit, "'Why did the Gentiles rage, and the peoples plot in vain? 26 The kings of the earth set themselves, and the rulers were gathered together, against the Lord and against his Anointed'— 27 for truly in this city there were gathered together against your holy servant Jesus, whom you anointed, both Herod and Pontius Pilate, along with the Gentiles and the peoples of Israel, 28 to do whatever your hand and your plan had predestined to take place. 29 And now, Lord, look upon their threats and grant to your servants to continue to speak your word with all boldness, 30 while you stretch out your hand to heal, and signs and wonders are performed through the name of your holy servant Jesus." 31 And when they had prayed, the place in which they were gathered together was shaken, and they were all filled with the Holy Spirit and continued to speak the word of God with boldness.

There are 5 aspects of this prayer that are vital to our prayers we offer in corporate worship today. This prayer helps us to see what we mean when we say we want to have a Biblical understanding and practice of prayer. The first aspect of this prayer and all

corporate prayers offered in the context of the gathered body of Christ is that **it is Addressed to God in the name of the Body of Christ**. We have discussed before the ACTS model of praying – Adoration, Confession, Thanksgiving, Supplication. That model begins with adoration, and that is what we see here. Their prayer as a body is God centered. It begins by acknowledging God's sovereignty, but it goes further to explain why he is sovereign. He made the heaven and earth and sea and everything... Then it points out through an old Testament quote that God controls even the evil that is planned on the earth. The peoples plot in vain and the kings of the earth set themselves... against the Lord. But we should see Psalm 2:4 that follows the two verses they quote, because the intent is that these men and women who grew up devoutly Jewish for the most part would have known what the next verse in Psalm 2 says. Why did the Gentiles rage, and the peoples plot in vain? The kings of the earth set themselves, and the rulers were gathered together, against the Lord and against with Anointed... Verse 4 of Psalm 2 says, He who sits in the heavens laughs; the Lord holds them in derision. This truth from verse 4 would have resonated with those hearing this prayer. So, not only is God sovereign, but his sovereignty extends even to those who intend to do evil. We will come back to this sovereignty in a minute.

But for now, notice there is no "I" in this prayer, in fact nearly everything is "you" and when it does mention the ones praying it is in the sense of "we." Look at verse 29, ...Lord, look upon their threats and grant to your SERVANTS to continue to speak your word with all boldness. I don't think this is everyone praying at one time or even quoting a prayer together. But one person praying, probably an Elder, leading the people in prayer corporately. So the people are praying in their hearts saying Amen to what the one leading is saying on their behalf. Their prayer is that the entire church would have the boldness that Peter and John had in the face of the people that were against Jesus, just as Herod and Pontius Pilate were when they sentenced Jesus to death. Amen isn't used in the prayer, but the reason we respond to corporate prayer with Amen is that it means "so be it." I also agree with what has been prayed. It shows that we are included in the prayer just as this prayer included a prayer for boldness on behalf of all God's servants in His church.

So prayer in a corporate gathered setting should be directed to God, but on behalf of the entire gathered church. **Secondly, we should notice that this prayer heavily incorporated Scripture into the prayer**. I want to go back to the quote which is from Psalm 2 in verses 25-26. 25 who through the mouth of our father David, your servant, said by the Holy Spirit, "'Why did the Gentiles rage, and the peoples plot in vain? 26 The kings of the earth set themselves, and the rulers were gathered together, against the Lord and against his Anointed'— This is clearly incorporating scripture into prayer, but it goes deeper than surface level scripture. I must admit that too many of my own prayers that use Scripture quote from the easiest places that demonstrate God's love or our sinfulness. I many times will pray scripture even in personal times of prayer. But this is using a more obscure reference in Psalms to demonstrate that God's actions in the past on behalf of his people were the same actions he did in the present on behalf of his people in the New Testament. This is some serious application of God's Word to this prayer of thanksgiving. Hopefully you can see how the one praying is using the Old Testament Scripture to recognize God's present work in the church. The Old testament is being quoted here to show that God worked on behalf of his king, who is David, the author of the Psalm, when adversaries came against him. This Old Testament picture of

God's power at work on behalf of his people is then applied to the current situation in verses 27-29. 27 for truly in this city there were gathered together against your holy servant Jesus, whom you anointed, both Herod and Pontius Pilate, along with the Gentiles and the peoples of Israel, 28 to do whatever your hand and your plan had predestined to take place. 29 And now, Lord, look upon their threats and grant to your servants to continue to speak your word with all boldness...

This scripture incorporated into the prayer was just one way that this prayer demonstrated the third aspect of corporate prayer that should be present in our prayers – **a clear trust in the sovereignty of God**. This is important. Look at how God's sovereignty is referenced in this prayer. Verse 24, Sovereign Lord, who made the heaven and the earth and the sea and everything in them... Verse 28 references God's sovereignty in recognizing that everything that happens only happen by God's "hand and your plan [that]... predestined [it] to take place." Our prayers as a congregation, and as individuals as well, should rest heavily on the sovereignty of God. God's sovereignty is his absolute rule over everything in this universe, and therefore over everything in our lives. Why should our prayers reflect this truth? Because we praise God for what he has done and ask him to act on our behalf. Now of course there is more to prayer than that, since we also worship and adore God for who he is. But praising and asking are core aspects of prayer. Both of those should be guided by a profound and unwavering trust in the sovereignty of God. What do I mean by that? 1Thessalonians 5:18 says, 18 give thanks in all circumstances; for this is the will of God in Christ Jesus for you. The only way you can really thank God for ALL circumstances, literally everything that comes into your life, is if you really believe that God is ordaining and controlling everything that happens to you. His sovereignty means that even the things we consider bad, unpleasant or negative in our lives, he in some sense allowed or determined for us to go through. His sovereign purpose is always for his glory and our best according to his eternal purpose.

Even salvation itself is not primarily because he loves us and definitely not because we are in some sense special or more important than someone who isn't saved, but because he is saving us to bring him glory. Ephesians 1:11-12 says, 11 In him we have obtained an inheritance, having been predestined according to the purpose of him who works all things according to the counsel of his will, 12 so that we who were the first to hope in Christ might be to the praise of his glory. God wants to save you, to give you freedom from sin that entraps every one of us, so that you can be restored to your original purpose as image bearer of God who brings him glory. But in bringing him glory, we discover the most good and most joy that we can find in this life no matter the circumstances. And he accomplished that purpose through Jesus Christ who died on a cross to take the punishment for your sin on himself. The reason he could do this is also seen in this prayer in **a fourth aspect of the prayer, that it was grounded in the gospel**. Notice in the prayer that Jesus is called God's "holy servant" twice and God's "anointed." The gospel is that in God's sovereign plan, he provided a perfectly holy or sinless sacrifice to be offered up in our place and take the punishment for our sin. That sacrifice was Jesus himself. That truth should always be present in our prayers. Even here the reference to Jesus as God's appointed or anointed and chosen holy Savior points to the gospel. So, when you put your faith in Jesus as your Lord and Savior, you can be forgiven of your sin and truly glorify God. Perhaps today, some of you listening to this sermon can appreciate our worship and the prayers that we offer, but you are

not really included in those prayers and cannot pray along and say amen to them because you are not part of the Body of Christ. Notice I didn't say church member, but part of Christ's body, a follower of Jesus, a believer in Jesus. Today, you can be forgiven of your sins and made of part of Christ's body his church through faith in him so that your voice will be added to the prayers we offer in worship.
And then we come to the fifth and final aspect of this public corporate prayer. **Petitions were made on behalf of the body**. Finally, the prayer includes petitions made on behalf of the church body. These are what we are asking God to do on behalf of those in the congregation or specifically through our congregation. We should notice, though, two things about these requests they made to God. First, how little of the prayer was devoted to those requests, but secondly how much of these prayers was focused on God's work through them to spread his glory. That is definitely not to say that there was never prayer for physical needs such as healing or financial needs. We even see that in verse 30. But overall, this prayer focused on God's sovereignty, in praise and thanksgiving for what he had done for them. And then in the midst of that reliance on God's sovereignty, the congregation prayed for God to take actions on their behalf in verses 29-30. 29 And now, Lord, look upon their threats and grant to your servants to continue to speak your word with all boldness, 30 while you stretch out your hand to heal, and signs and wonders are performed through the name of your holy servant Jesus." We see prayer for healing, but notice it is even secondary to the prayer for boldness to share Christ even in the face of threats. There seems to be an assumption that God will heal and bring signs and wonders in powerful ways into the church. We don't have time to fully deal with signs and wonders, but throughout the New Testament we see prayers for healing even as the emphasis remains on proclaiming Christ. Those requests related to sharing Christ and declaring his glory are the ones we should make primary in our prayers. Of course, healing in individuals can be part of God's plan to do that as it seems like is the assumption in this prayer, so it is right and good to pray for healing along with spiritual needs.

As this passage ends notice what happens in response to their prayer. Verse 31 says, 31 And when they had prayed, the place in which they were gathered together was shaken, and they were all filled with the Holy Spirit and continued to speak the word of God with boldness. God answered their prayers. They saw a demonstration of God's power and they were given that power to boldly declare the gospel of Jesus Christ. This is what we want to happen at YIBC! This kind of power comes through the church praying together prayers that are God focused, directed towards his sovereignty and rooted in the gospel, saturated in the truth of God's Word and trusting in his power to answer the requests we bring before his throne. So, when you hear these prayers offered each week, when you gather to pray on Wednesday nights or in this sanctuary on the first Sundays of each month, let this understanding of corporate prayer guide how we pray and what we pray for. May God hear our prayers and respond with a power that makes us more bold in declaring the truth of the gospel and living out our lives as the church to a world that desparately needs to know Jesus. Let's pray.